

令和元年度 佐賀県立鳥栖工業高等学校(定時制) 学校評価計画

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
働きながら学ぶという基盤に立ち、広い視野と豊かな創造力を持ち、自ら学ぶ意欲と自らを律する力を備え、心身共にたくましく、個性豊かで人間愛に満ち、社会に貢献できる人材の育成を図る。	① 基本的な生活習慣の確立を図る。 ② 学習意欲を向上させ、主体的・自主的な学習態度を育成する。 ③ 進路指導の充実を図る。 ④ 健康管理とスポーツの振興を図る。 ⑤ 志を高める教育の推進を図る。 ⑥ 業務改善・教職員の働き方改革を推進する。

達成度	A: ほぼ達成できた
	B: 概ね達成できた
	C: やや不十分である
	D: 不十分である

3 目標・評価							
① 基本的な生活習慣の確立							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○基本的な生活習慣	・基本的な生活態度・規則、約束を守る態度	・高校生らしい服装や言葉遣い、また社会人としてのマナーを身につける。	・授業時間や行事等の集合時間を守るために、出席のチェックを厳正に実施し、事前連絡を徹底する。 ・登校指導や給食時の連絡会、HR、校外行事前に頭髪・服装指導を徹底するとともに、定期的に頭髪・服装検査を実施する。	B	・行事前に事前指導を行った。授業時間や行事の集合時間に遅れる生徒はほとんどいなかった。 ・服装については概ね守れていたが、髪型について2名指導を行った。	・頭髪や服装について、日常的な指導を強化する。
		・出席率	・出席率90%以上を達成する。	・給食時に登校していない生徒にはすぐに電話連絡を入れ、出席を促す。 ・家庭との連絡を密に行い、生徒の状況について常に情報共有を図る。	A	・出席率は92.5%であった。	・現在の指導を継続する。
		●いじめ問題への対応	・いじめの撲滅	・日頃から生徒理解に努め、未然防止や早期発見に努める。 ・いじめを覚知した場合は、迅速かつ適切な対応を行うとともに、再発防止に努める。	・面談や学校生活アンケートを行い、いじめの芽を早期に発見する。 ・いじめ・体罰等対策委員会において、事案発生時の対応について各自の役割を明確化し、教職員全体で共通理解を図る。	A	・いじめに関する生徒対象の全体指導を行った。また、職員に対しては、観察力や対応力の向上について研修を行った。 ・生徒及び保護者対象のアンケートを行い、いじめの早期発見に努めた。 ・気になる情報をもとに個人面談を行った。
●心の教育	・礼儀作法とマナー	・率先して挨拶ができ、言葉遣いにも注意を払うことができる。	・登校指導時や給食時に声掛けを行い、挨拶指導を実施する。 ・職員室の入退室要領を掲示して実践させる。また、職員との会話が社会人としての言葉遣いにつながることを意識させる。	A	・登校時や給食室へ入室する際に挨拶ができるようになった。 ・ほとんどの生徒が要領に従って、職員室への入退室動作が出来るようになった。	・挨拶や入退室について、現在の指導を継続するようになった。 ・適切な言葉遣いができるよう全体注意を行い、その都度注意を継続していく。	
	・自他の生命を尊重する精神	・交通安全に対する意識を高めるとともに、道徳心を身につける。	・通学車両検査や交通安全集会を実施し、ルールやマナーに対する意識の高揚を図る。 ・各教科や学校行事などの活動において、他者の存在を意識させるとともに、その存在を尊重する態度を養う。	B	・下校中に自転車の交通事故が発生した。	・交通安全について、日常的な指導を強化する。	
② 学習意欲の向上及び主体的・自主的な学習態度の育成							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●学力向上	・基礎学力	・計算カプソトレーニング(以下ケト)の積み重ねにより基礎学力が向上する。 ・主体的・能動的に授業に参加する姿勢を身につける。	・定期的にケトを行い、学習の積み重ねによる達成感とともに確かな学力の定着を実感させる。 ・分かる授業づくりを目指し生徒の理解に応じて説明や発問をしたり資料を準備するなど、毎時間の授業の展開について工夫を重ねる。	B	・分からない問題を教員に質問するなど、積極的に取り組む生徒が多かった。	・更なる教科指導の工夫に取り組む。
		・ものづくり	・各種実習を通して専門系の基礎・基本をマスターし、機械・機器の操作が概ねできるようにする。	・座学と実習との連携を図り、学習内容を充実させる。 ・工業基礎、実習、課題研究を通して、ものづくりのすばらしさや大切さを伝えるとともに、体験的な学習を充実させる。	A	・各種実習テーマ毎に「ものづくり」を体現するために、指導された技術を鍛錬し、作品を完成することによって、達成感を十二分に味わうことができた。 ・4年次生は課題研究発表会で各科とも素晴らしい成長の証が感じられた。	・現在の指導を継続する。
		・資格取得	・資格取得に向けた学習に主体的に取り組むことで、取得・合格できる学力を身につける。 ○計算技術検定4級 合格率80%以上 ○パソコン利用技術検定 合格率70%以上 ○第二種電気工事士 合格率50%以上 ○各種国家資格 合格率50%以上	・授業を活用しつつ、個別指導でも対応する。 ・一定期間補習授業や模擬テストを繰り返し、実力養成に努める。 ・資格取得に必要な知識や技能、また、学習の仕方などについて、積極的に情報提供を行う。	A	合格率100% 合格率91% 合格率43% 合格率79% 合格率100% 合格率67% 合格率100% 合格率67% 合格率50% 合格率25% 合格率100%	・現在の指導を継続する。
③ 進路指導の充実							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○進路指導	・就労指導	・在校生の就業率は80%以上にする。	・ハローワークとの連携を強化し、地元企業に積極的に働きかける。 ・就業を継続することの重要性を認識させ、さらに辛抱する力を身につけさせるため、事業所訪問を行い、事業所との連携を深める。	A	・年間を通して就業率は80%を上回った。 ・ハローワークの担当者や連携を図り、地元企業との交渉も円滑にできた。 ・事業所訪問においても、本校生徒の就業状況は好評である。	・在学中に資格を取得したことを機に、さらに力をつけたという生徒が現れるなど、意識面の変革が進んだ。 ・就業体験を通じ、未知の状況でも対応できる力(コンピテンシー)の育成を図る。
		・就職指導	・卒業予定者で就職を希望する者の就職率100%を目指す。	・全日進路指導部及びハローワークとの連携を図り、求人情報を提供する。 ・生徒が希望する職種に就けるよう、企業の開拓を積極的に行う。 ・授業前や夏季休業期間に、一般教養学習(SPIを含む)を取り入れ、就職試験に対応した指導を行う。 ・ポートフォリオを取り入れ進路意識を高める。	A	・全日進路指導部及びハローワークとの連携を図り、進路支援に取り組んだ。 ・企業開拓を積極的に行い、全日進路生徒にとっても難関な企業を受験した結果、内定をいただいた。 ・担任と保護者、そして進路指導部の三者連携による指導で、生徒の状況に応じた支援ができた。	・平成29年度から戦略的キャリア教育に取り組んでおり、進路講話・職業講話・キャリア講話等々の内容の精選と充実を図り、各自のライフプランと、それに合わせたキャリアデザインの構築を支援してきた。今後も、「夢実現」を目指す人材を育成するため、工夫をする。
		・進学指導	・大学・専門学校を希望する生徒の進路目標を達成させる。	・大学・専門学校等の講師を積極的に活用し進路ガイダンスを行う。 ・面談を通して、生徒が自分の希望進路の実現に向け、計画的に取り組むよう支援する。 ・希望者に対し、外部模試を活用し、学力向上を目指す。 ・必要に応じた補習授業を行うなど、個別対応を含めた学習支援を行う。	A	・進学希望者については、担任等の細かな指導を行い、合格できた。 ・進学志望生徒の希望に応じた補習を計画し、志望実現に向けた適切なプランニング支援ができた。	・現在の指導を継続しながらも、今後の入試制度及び調査書の変化を早くつかみ、進学指導の「変化対応力」を築き、希望生徒への還元を図る。 ・コーチングを軸に、物事の本質を捉える5WIHを鍛え、「質問力」の向上を通して思考力・判断力・表現力を育む。
④ 健康管理とスポーツの振興							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策
教育活動	●健康・体づくり	・健康な体づくり	・基礎体力と持久力を向上させる。 ・体づくりによる健康増進の意義を理解する。	・体育の授業の冒頭において、時間や距離を設定して持久走や縄跳びを実施する。 ・部活動を通して健康増進と生涯体育の基礎を身につけさせる。	B	基礎体力がついたことで、全ての生徒がダブルタッチで100回連続跳ぶことができた。課題としては、挑戦する技が冴えてきたため、活動量が減る場面が後半出てきた。	ダブルタッチや縄跳びなどにおいて、授業内で独自の検定試験を実施するなどして、達成感を味わわせるような仕掛けをしていきたい。
		・自己管理	・一人ひとりが健康意識を持ち、健康の保持・増進に努める。	・健康診断の意義・必要性について事前指導を行い、検診率の向上を図る。 ・健康増進を図るため、健康診断の結果をもとに個人指導に努める。 ・「保健だより」発行などをとおして、身近な保健情報を提供する。 ・健康に関するHR(講演会含む)を実施する。	B	・健康診断は全員受診している。治療を継続している生徒もいるが、検診終了後や夏季休業前や冬季休業前等、随時、受診勧告を行っているにもかかわらず、なかなか受診しようせず、受診結果通知書を未だに提出しない生徒もいる。	・保健だよりによる広報での呼びかけを行い、保健担当を中心に該当生徒への通院の働きかけなどを今後も継続していきたい。
		・食習慣と食の自己管理	・給食の喫食率を80%以上とする。 ・健全で規則正しい食生活を習慣づける。	・献立内容や給食施設の改善を図る。 ・給食指導(手洗いや給食マナー)の徹底を図る。 ・就労後の疲れが取れるような給食環境づくりに努める。	B	・喫食率は78.9%になり、惜しくも目標を達成できなかった。 ・頻りに声かけはしているが、給食をとらない生徒や給食の時間に間に合わない生徒もみられた。	・今後も食育指導を続けていきたい。
⑤ 志を高める教育の推進							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策
教育活動	●志を高める教育	・キャリア教育	・「自己マネジメント」を身につける一環として、社会人基礎力の向上を図る。 ・他者と関わりながら成長し、時代の変化に対応できる人材の育成を図る。	・将来の夢や職業を思い描き、それにつながる資格や技術の習得という意識を高める。 ・コミュニケーションスキルやリーダーシップを高める活動を取り入れ、自己肯定感を高め、やり抜く力を育成する。 ・変化に対応できる人材を育成するため、「アクティブラーニング」を取り入れたキャリア教育を推進する。	B	・多様な分野で活躍中の講師を招聘し、講師のターニングポイントとプロ意識について語り、過去・現在・未来と時系列に志望を深めさせ、社会への参画意識から進路観の育成を図る。 ・授業並びにキャリア講話の中に、ワークショップやペア活動を各場面で取り入れたが、他者との交流から自己肯定感を高める工夫が、十分はなかった。	・日常の声かけ運動を通して、生徒の価値観をさせ、過去・現在・未来と時系列に志望を深めさせ、社会への参画意識から進路観の育成を図る。 ・「志望理由シート」を作成し、自己理解を深めることによって、専門的な技術者としての意識を育む。
		・さがを誇りに思う教育	・佐賀県の良さを見出し、ふるさとをより良くしていくとする意欲や態度を身につける。	・「佐賀語り」を使用して、佐賀県の偉人、歴史、自然、今について学ぶ。 ・佐賀県について、興味を持ったことを学習用PC等を使い調べ、理解を深める。	B	・全国に誇れる人物が佐賀に多数いることを学習させることができた。 ・吉野ヶ里以外にも歴史的に重要な遺跡があることを伝えることができた。	・現在の指導を継続する。
⑥ 業務改善・教職員の働き方改革の推進							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	・業務の効率化の推進	・各分掌間の連携及び情報共有を図り、効率的な業務への取組を推進するとともに、教職員の時間外勤務時間を月平均30時間以内にする。	・各教職員の勤務状況を確実に把握するとともに、特定の教職員に業務が集中しないよう職員間で協力して業務を行う。 ・個人の業務を見直すとともに、学校全体で削減できる業務を検討する。 ・休憩時間の取り方に配慮する。	A	・教職員の時間外勤務時間は月平均4.7時間で、目標値を大きく上回った。時間内に業務を終了するよう職員の意識が高まった。	・各業務の「見える化」を進め、業務量を数値的に把握することにより、分掌間の負担の差を縮減していくよう、調整を図っていく。
本年度の重点目標に含まれない共通評価項目							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策
学校運営	○学校経営方針	・長期経営計画 ・学校運営計画	・各計画について、教職員、生徒、保護者、地域への周知を徹底する。	・職員会議、各種集会、保護者会等を通じて各計画について説明する。 ・HPや学校だよりを通じて各計画を公表する。	B	・年度当初に時間をかけて、各計画について説明し、周知徹底を図ったが、アンケート結果によると、職員や保護者に対する浸透度は、昨年と同程度であった。	・HPに各計画を掲載し、地域や保護者への情報発信を心がけると共に、職員や生徒に対しては、各計画について話をする場を定期的に設け、理解度を高める努力をする。
		・多様な選択科目	・生徒の多様な進路希望に対応できる教育課程を編成する。	・シラバスを生徒及び保護者に配布し、教育課程について理解を深めてもらう。 ・教科・科目の選択に当たって説明会を開催する。	B	・次年度の履修科目について、生徒向けに説明会を実施した。 ・保護者に教育課程表を配布し、実施教科・科目の理解を深めてもらった。	・今後も、生徒・保護者へ、単位制についての説明を行いたい。
	○教育課程	・授業時間の確保	・授業時数の確保に努め、授業実施率80%以上を目指す。	・各科目について、35時間×単位数の授業時間の確保に努める。行事の精選と教科担当者の協力で80%以上の確保を目指す。	A	概ね80%以上の授業時間数を確保することができた。	・現在の指導を継続する。
		・学習評価	・適正な評価の実施に努める。	・シラバスを生徒及び保護者に配布し、学習評価について理解を深めてもらう。 ・評価方法を十分知らせ、学習意欲の喚起と説明責任を果たす。	B	・生徒による授業アンケートでは、90%近くの生徒が好感的な回答をした。	・現在の指導を継続する。
	○開かれた学校づくり	・保護者との連携	・保護者の学校行事への参加率を上げる。	・PTA総会を始めとする学校行事の案内を確実にし、参加を促す。 ・三者面談などの機会を通して、学校からの案内の有無を確認する。	A	・学校行事を案内したことで、徐々に保護者の参加が増えてきた。 ・役員間の協力体制も良好で、県高PTA総会並びに三神地区のPTAにも積極的に参加していただいた。	・今後も行事への参加を積極的に呼びかける。 ・県高Pからの情報提供も継続的に続ける。
・地域との連携 ・情報発信	・聴講生を積極的に受け入れる ・学校の状況について、積極的に情報発信する。	・HPの更新を随時行い、常に最新の情報を外部に提供する。	B	・HPの更新を随時行い、情報発信に努めた。	・今後も定期的に情報発信、更新を行う。		

●は共通評価項目、○は独自評価項目